

★米国は世界史上、最も好戦的な国＝ジミー・カーター

今年 94 歳のカーター元米大統領は先ごろ、故郷のジョージア州プレインズのマラナサバプテスト教会での日曜学校での定期講話のなかで、米国は「世界史上で最も好戦的な国」になったと述べました。最近あったドナルド・トランプ大統領との話し合いを紹介しながらのべたもので、カーター氏は次のように話しました。

その時、トランプ大統領は中国の経済成長について心配していました。中国が我々を追い越しているというのです。これにたいして私は、中国の成功の大部分は平和的な外交政策のためではないかと思うと答えました。

みなさんは中国が 1979 年以降、どこかの国と何回戦争したかご存知でしょうか。一度もないのです。一方米国はずっと戦争状態でした。中国が最後に大きな戦争をしたのは 1979 のベトナム侵攻で、人民解放軍はベトナムの国境地域を砲撃しました。そして 1980 年代に海軍がベトナム海軍と交戦しました。それは事実ですが、しかしそれ以来、中国は近隣諸国や世界と平和を保ってきました。

これにたいし米国が国として平和であったのは 242 年のうちの 16 年間だけでした。戦争と軍事攻撃、そして軍事占領を数えてみると、米国が平和であったのはフォード政権の最後の年の 1976 年と 1977 年から 80 年までのカーター政権時代の 5 年間だけです。米国は世界の歴史の中で最も好戦的な国であり、それは米国の原則を採用するよう他国に強制する結果なのです。

中国は平和の配当によって経済成長を推進しました。米国には高速鉄道が何マイルあるでしょうか。中国はおよそ 18,000 マイル (29,000 km) の高速鉄道を持っています。これにたいし米国は軍事支出で 3 兆ドルも無駄にしたと思います。米国の戦費はみなさんの想像以上なのです。一方中国は戦争で一銭も無駄にしていない。だからほとんどあらゆる点で我々より先んじているのです。

そして、その違いはどうでしょう。3 兆ドルをインフラに投入すれば、おそらく 2 兆ドルの余剰がでるはずです。高速鉄道もできたでしょうし、橋梁も崩壊せず、道路も適切に維持されていたでしょう。教育システムは、韓国や香港と同じくらい良くなるでしょう。

(了)

(解説) ブラウン大学ワトソン国際広報研究所による 2018 年 11 月の調査によると、米国は 2001 年以來、イラク、シリア、アフガニスタン、パキスタンその他の国々との戦争で 5 兆 9000 億ドルを費やした。

米国では、国は高貴な目的のためにそして自由の擁護のために戦争をすると広く考えられていますが、世界の世論と事実は全く異なる絵を描いている。2013 年の WIN /ギャラップ世論調査によると、ほとんどの国では、米国が世界平和への最大の脅威であると考えられている。また 2017 年のピューリサーチ世論調査では、対象となった 30 カ国でかつてない人々が米国の権力と影響力を「主要な脅威」と見なしている。

米国は第二次世界大戦の終結以來、数十か国に侵攻し爆撃し、世界でほとんどすべての右翼独裁政権を支持してきた。1949 年以來、何十もの外国政府を転覆し、転覆しようとしてきた。同じ期間にほぼすべての人民解放運動を鎮圧しようとして積極的に取り組んできた。また同盟国、敵対国を問わず多数の国の選挙に介入した。

(ブレット・ウルキンズ記者 = 4 月 18 日テレスルから)